

日本学術会議の在り方に関する政策討議（第１０回）
（総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会）

議事概要

- 日 時 令和４年１２月２２日（木） １１：３１～１２：２７
- 場 所 中央合同庁舎第８号館 ６階６２３会議室
- 出席者 上山議員、梶原議員、梶田議員、佐藤議員（Ｗｅｂ）、篠原議員、菅議員（Ｗｅｂ）、波多野議員、藤井議員（Ｗｅｂ）
（事務局）
森総理補佐官、大塚内閣府審議官、奈須野統括官、坂本事務局長補、渡邊事務局長補（Ｗｅｂ）、井上審議官、覺道審議官、次田参事官、
（内閣府大臣官房総合政策推進室）
笹川室長、阿蘇副室長、児玉参事官
（日本学術会議）
菱田副会長、小林会長アドバイザー
（オブザーバ）
橋本内閣官房科学技術顧問、（文部科学省）井上諭一総括審議官
- 議題 日本学術会議の在り方に関する政策討議（第１０回）
 - ①日本学術会議の在り方についての方針等
 - ②「日本学術会議の在り方についての方針等」についての意見交換等【非公表】

○ 議事概要

午前１１時３１分 開会

○上山議員 只今から第１０回の日本学術会議の在り方に関する政策討議として、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を始めたいと思います。

本日は内閣府から大臣官房総合政策推進室に参加をいただいております。

それでは、議事に入ります。

なお、会議の記録については、第１回の政策討議で決めたとおりにいたします。また、会議の公開・非公開については、資料の説明はプレスオープンとしますが、率直な意見交換を行う

ため、それ以降のＣＳＴＩ有識者議員同士のディスカッションの部分は非公開とし、プレスは退席をいただきます。ただし、発言者名の部分を伏せた議事録の議事の概要は公表いたします。

本日の議題は、「日本学術会議の在り方についての方針」等です。

日本学術会議の在り方については、本年１月２０日、本政策討議において有識者議員の連名で日本学術会議の在り方に関する政策討議取りまとめを作成し、その後、総合政策推進室において検討が進められました。検討の結果、１２月６日に資料１「日本学術会議の在り方についての方針」が公表され、２１日にはこれを具体化した資料２「日本学術会議の在り方について（具体化検討案）」を日本学術会議に対して説明されたものと承知しております。

これらの概要について、総合政策推進室から説明をお願いいたします。

○笹川室長

冒頭、座長から御紹介がございましたとおり、日本学術会議の在り方については、この政策討議で本年１月に取りまとめ、御報告いただきました。それを踏まえて内閣府で検討し、資料１「日本学術会議の在り方についての方針」、そしてこれを踏まえて更に少し具体化を図った資料２「日本学術会議の在り方について（具体化検討案）」を取りまとめたところです。資料１については１２月８日の日本学術会議の総会、資料２については昨日（１２月２１日）の総会で、それぞれ御報告し、色々御意見を賜ったものです。今回は、事後報告になりますが、この政策討議の場において以上のような経緯を御報告させていただくとともに、具体化検討案の内容を簡単に御紹介させていただきます。

資料２を御覧ください。

まず、冒頭のパラグラフでは、近年、政策立案に科学的な知見を取り入れていく必要性がこれまで以上に高まっている、それから、世界が直面する重要課題等に政府や経済界、社会、国民と日本学術会議が連携を深めながら取り組んでいくことが、科学技術立国の実現あるいは国際社会におけるプレゼンスの向上などのためには不可欠であるという問題意識を述べております。

それを踏まえて、第２パラグラフで、学術会議においては、政府、産業界、社会などと問題意識、時間軸や様々な制約などを共有しながら、中長期的・俯瞰的分野横断的な課題について、時宜を得た質の高い科学的助言を行う機能を始めとする活動一般を強化していく、機能強化のポイントや主な目的を明らかにさせていただいています。

問題意識の共有等あるいは時宜を得た科学的助言という辺りは、学術会議の総会でも色々御意見いただきましたが、我々といましては、結論を共有しないといけないという趣旨では

なく、科学的助言を御検討いただくに当たっては、あらかじめ受け手の側と問題意識や時間的なスケジュール感、様々な制約条件等がある程度共有し、念頭に置きながら御検討いただければ受け手としても有り難いし、結果として頂いた科学的助言が政府や経済界等々に反映されていくのではないかと趣旨で書かせていただきました。そして、この部分は1月のC S T I政策討議から、先生方からいただいた報告と、認識を共有しているものと考えております。

その上で、2番目のパラグラフの後半ですが、アカデミーとの信頼関係の維持や、世界が直面する重要課題に政府とアカデミーが連携を深めながら取り組んでいくということの重要性に鑑みて、学術会議の設置形態については、学術会議からも御希望がありましたとおり、国の機関のまま存置した上で、国の機関である以上は、活動・運営の徹底した透明化、ガバナンス機能の迅速かつ徹底的な強化を図る必要があるという結論に至ったところです。

今後の進め方については、その前文の最後に、学術会議の意見も聞きながら必要な検討作業を進めて、次の国会に提出することを目指していくと記述させていただいているところです。

内容的には、時間の関係ございますので余り細かくは申し上げませんが、まず「期」を超えた活動の継続性や対外的な透明性等を考えると、まず中期的な活動方針を作成していただいて、業務事項、社会との対話、内部組織などについて、基本的な事項を定めていただいたらよいのではないかと思います。

それから、科学的助言機能については、中長期的視点、俯瞰的視野、分野横断的な検討が担保され、かつ緊急的な課題についてタイムリーに対応することを考えると、今まで以上に幹事会にリーダーシップを発揮していただいて、審議を行う各部に調整、援助、助言等を行うということを明確にした方がよいと考えております。それから、提言等についても、いわば、出しっ放しではなくて、フォローアップ等もしっかりやっていていただきたいですし、冒頭申し上げた問題意識、時間軸等の共有などもしっかり図っていただきたいということです。

一方、3ポツについては、日本学術会議の独立性に鑑みまして、内部の組織編成、あるいは新たな分野、融合分野への対応体制といったようなものは、法律で大きな枠を規定して、例えば活動方針の中に書いてもらうといったことを規定した上で、学術会議の取組を見守るという姿勢を明らかにしております。

4番目は、会員・連携会員に求められる資質や様々なバランス、そして、5番目とも関係しますが、会員等以外から推薦されてきた候補者についても積極的に登用を図っていただきたいということを法律として書きたいと考えております。

それから、5番目、選考・推薦、任命です。この点については、基本的な考え方として、高

い透明性の下で厳格な選考プロセスが運用されることが必要であると考えております。これは、国の機関ですので、活動そのものに加え、活動・運営を担う会員や連携会員の選考についても、厳正で透明なプロセスが必要だろうということです。

その上で、国の機関であることも踏まえ、選考・推薦、任命が適正かつ円滑に行われるよう必要な措置を講じるということで、具体的に二つ記載しております。

一つは、幅広く多様な人材の中から会員・連携会員の候補者を選考できるようにするため、現在、会員・連携会員だけが推薦して、それ以外の方からは情報提供という形で取り組んでいらっしゃる。これを会員等以外の者にも推薦を求めるという仕組みを法律上はっきりさせていく。

それから、2番目は、現在、選考委員会での選考は学術会議の中で閉じた形で行われておりますが、会員等以外の第三者の目を入れるということで、第三者から構成される委員会を設置して、選考に関する規則あるいは選考について意見を述べる。これによって、会員等の選考プロセスの透明性の向上や厳格化を図っていったらどうかということです。そういった委員会、審議会と同じようなものとなると思いますので、委員会の意見は尊重していただくというふうに考えております。

③は、こうした改革を行いますと、仮に法律が通って、ある程度速やかに施行ということになっても、一定の準備期間は必要と思われるので、そのための措置を講じる必要があるということに記載しています。

また、活動の評価については、現在、学術会議でも外部の有識者の先生に意見を伺って進めているようですが、やはり独立して職務を行う国の機関であるとするれば、より高い透明性が求められると思いますので、目標・評価基準などは明確に定めていただいて、外部有識者の意見も聞きながら自己評価を行っていただく。その結果をフィードアップしていくということが必要かと考えております。

最後に、以上のような改革を進めるに当たっての改革の進捗状況を、会員の皆様は3年ごとに期が変わりますので、3年、6年をめどとしてフォローアップをしていったらどうかと考えております。この点は趣旨を御理解いただいていると思ひまして、総会でも余り質問等は出ておりませんが、飽くまでも検討を加えた上で、必要があると認めるときには、別の法人になることも含めて、所要の措置を講じるということです。3年後あるいは6年後に法人化はありきということでは全くございません。念のために申し上げます。

以上が具体化検討案の概要ですが、8日、それから昨日の学術会議の総会では本当にたくさ

んの御議論、御意見をいただきました。

また、資料3として配布されているようですが、学術会議からは声明という形で御意見、お考えが表明されたところです。この声明での御指摘も踏まえながら、そして学術会議の意見もよく伺いながら、更には丁寧な御説明を心掛けながら、検討を進めていくこととしたいと考えております。

以上です。

○上山議員 ありがとうございます。

資料2が公表された同日21日には、日本学術会議総会において資料3「声明 内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」（令和4年12月6日）について再考を求めます」が議決されたと承知をしております。その概要について、梶田議員から説明をお願いいたします。

○梶田議員 ありがとうございます。では、資料3に基づきまして説明いたします。

これは昨日の学術会議の総会の最後に総会として認めた声明です。

このなかで、3ページ目にまず経緯などが書かれておりますが、まずは8日と21日の学術会議の総会で笹川室長には合計6時間以上にわたりまして質疑応答にお付き合いいただきまして、どうもありがとうございました。

この声明ですが、基本的にその6時間の質疑応答で会員の多くの方々から出された懸念をまとめるという形で、本文2ページにまとめております。時間も限られておりますので、懸念事項、六つありますが、それを読み上げる形で私は終えようと思います。

3ページ目の一番最後、1）そもそも、既に学術会議が独自に改革を進めている下で、法改正を必要とする理由（立法事実）が示されていない点、2）会員選考のルールや過程への第三者委員会の関与が提起されており、学術会議の自律的かつ独立した会員選考への介入のおそれのある点、3）また、第三者委員会による会員選考への関与は、任命拒否の正統化につながりかねない点、4）現在、説明責任を果たしつつ厳正に行うことを旨とした新たな方式により会員選考が進められているにもかかわらず、改正法による会員選考を行うこととされ、そのために現会員の任期調整が提示されている点、5）現行の三部制に代えて四部制が唐突に提起されたが、これは学問の体系に即した内発的論理によらない政治的・行政的判断による組織編製の提案であり、学術会議の独立性が侵害されるおそれが多分にあることを示した点、6）政府等との協力の必要性は重要な事項であるが、同時に、学術には政治や経済とは異なる固有の論理があり、「政府等と問題意識や時間軸等を共有」できない場合があることが考慮されていない、このようなことを懸念事項、これはあくまで学術会議の総会として出た意見をまとめ

た懸念事項です。ほかにも、きちんと読んでいくと懸念事項はあるのですが、あくまでも総会としまして、議論の俎上に多く載った点をここでまとめました。

このような点があるということで、内閣府のこの「日本学術会議の在り方についての方針」について再考を求めますということとさせていただきます。

以上です。

○上山議員　ありがとうございます。

それでは、ここからは率直な意見交換の確保のために、議事は非公開とさせていただきます。プレスの皆さんは御退室をお願いいたします。

C S T I 有識者議員同士のディスカッション部分の議事概要の扱いに倣い、後日、発言者名を伏せたものを公表させていただきたいと存じます。

【プレス　退室】

○　それでは、意見交換に移ります。

御発言のある議員の方はおられますでしょうか。

○　質問が2点あります。

今年1月に色々議論した際、学術会議からも、産業界とか経済界や、政府との対話を積極的に行おうと思っているというお話がございましたが、約10か月経過した間に政府や経済界との自主的な対話がどのくらい行われたかを、教えていただきたいです。自主的な対話をどのくらい行われたかどうかが、独自改革がどのくらい進んでいるかということになると思います。

もう一点が、今、梶田議員から御紹介いただいた資料の6番に、学術には異なる固有の論理があり、政府等と問題意識や時間軸等を共有できないとありますが、こちらは政府とは共有できないが、社会とは共有できるということでしょうか。異なる固有の論理があり、共有できないというのが、よく分からないのです。共有できないとは、色々な課題を科学技術の観点から解決していこうと思ったときに、同じ目線で見られないということになるので、政府とは共有できないが、社会や経済と共有できるのであればまだ安心なのですが、こうしたふうにおっしゃっている理由をお聞かせ願えればと思います。

以上2点です。

○　では、今の2点について、よろしくお願いします。

○　まず私の方で2番目の点。

この昨日の声明で書いた点ですが、これ何かと申しますと、学術というのは、まず世界の学術と考えを共有しながら進めているという点、そして特に、我々、人類、地球などの未来について、余り短い時間軸で必ずしも考えている訳ではない、これはつまり政府と比べてという意味ですが、そうした点があるので必ずしも問題意識や時間軸が共有できる場合ばかりではないということが、少なくとも我々のいただいた文書では書き込まれていないということです。そうしたことをきちんと分かった上で、そうした考えがあるということを共有していただいた上で、政府と対話をしていくことが重要だということを言っております。

○ 今言った産業界との連携に関しましては、産業界等との連携強化の分科会を設置し、会員の中で産業界の方いらっしゃいますので何人か入っていただき、それで、研究力の調査をしたときも、COCNとかキャリアパスについての御意見等をいただきながら、色々な会議を進めております。少し今、継続的にやっているのですが、それぞれのイシューのところまで止まっているところもありますが、そうした体制を整えて、色々なところの一部、二部、少し一部、人社系は少ないですが、二部、三部を中心に産業界の意見を色々意見交換をしているということを進めております。

○ これはどれぐらいの頻度で、どれぐらいの形で。

○ 研究力のときにはCSTI議員にも出ていただきましたが、今のところ2回から3回程度やっております。

○ 産業界の会員といわれましたが、産業界の会員自体、少ないかと思えます。連携会員はいらっしゃいますか。

○ 連携会員は大分いらっしゃいますし、機械系は10名程度いらっしゃると思います。

○ 1月の議論の際、我々は産業界や経済界など、そうしたところとの議論が重要だとお話をしたときに、非常にその部分は前向きに捉えていらっしゃるというお話だったのですが、今、お話聞いていると、取り組んでいらっしゃるが、十分かという、まだまだ足りていない気がいたします。改革を行うときはスタートダッシュが大事です。ゆっくりと始めるのではなく、改革するぞと決めたらまずどれだけ前に進んでいくかという観点からは、今の御説明だと不十分なのではないかと思いました。

○ 2番目の点について。

○ 2番目の点は、そのため100%共有できる場合ばかりではないということをおっしゃっているのですか。

○ そうです。

○ それをおっしゃるには、随分虫眼鏡でご覧になられているような感じがいたします。例えば政府と経済界も、100%どのような場合でも合っている訳ではなく、時間軸が違っているとか、そうしたことはよくあります。だからといって殊更それを大きな理由にして何かを言うような話でもございません。さきほどのお話を伺っていると、殊更これを理由にするようなこともないような気がします。

○ でも、そうは言いながらも、やはり学術の固有の大切さというのは、必ずしも近視眼的なところばかりではないということが重要なので、そこら辺のことがそもそも最初に余りにも我々見えなかったということで、我々としてはそこを重要だということでここに書き込んだということです。

○ さきほど世界の学術界と、というお話がありましたが、例えば政府にしても経済界にしても日本に閉じ籠もっている訳ではなく、政府は世界の政府と、経済界は世界の経済界と、というような格好で結び付いております。ですので、その部分を殊更言う必要もないと思いますし、やはり時間軸については、短期的に解決しなくてはいけないことと長中期で見なくてはいけないことの両方があり、課題ごとに政府としても、今解決しなくてはいけないことと、長期的にわたって考えなくてはいけないことは場合場合に分けて考えているので、そこはそうしたロングタームとショートタームのお話がある上で、今回はこのショートタームについて意見をくださいという話になるのだと思います。

だから、おっしゃることもよく分かるのですが、ここの6番目の話は、少なくともあまり理由に挙げるほどのことはないという気がいたします。

○ そうはいっても、我々としては本当に顕在化していない問題について議論をするとか、そうした視点もとても重要と思っているので、やはりこの点を挙げておきたいということです。

○ それは、だから顕在化していない点についての議論ができていないということであれば、それは逆に、こうしたテーマについてもっと議論すべきだという御提案をいただければいい訳であって、別に否定的に考える必要はないという気がします。

○ それから、あともう一つ、最初の経済界との対話というところで、実は今、会員選考を進めておりますが、今までは会員・連携会員の外としては学協会だけだったのですが、今期からは経済界あるいはその他の専門職団体などについても、会員候補の情報提供をいただくという形でも広く色々なところと対話するようにしておりますし、実際にそのために関連する団体などに行って、お話を伺ったりもしてきております。

○ 固有の論理というものに対する政府への提言、助言を求められるポジションというのが学

術会議の役割だというふうに考えると、そこを棄損するような、今回の検討案というのがそこを棄損しているというふうに強く思われるというところが、少し分かりにくいかなと思うのですが。それはおそらく読み方にもよるかもしれませんが、その点は一つのポイントとしてあると思います。

○ ありがとうございます。

今回の学術会議の方々の方からのこの再考案ですが、いくつか論点あると思います。一つは、会員選考の第三者委員会というところに、相当学術会議としては抵抗感があるのだらうと思います。お伺いしたい点も含めてなのですが、やはり日本学術会議の在り方の目線のベースというのは国民目線ということだと思います。これだけ学術というものが国民生活の中に深く根ざして、我々の一人一人の幸せというものに大きな影響を及ぼしていることを考えると、学術会議の在り方というのも国民目線で見て十分理解されるのかどうか、あるいは国民の期待に十分応えられる組織となっているのかということが、決定的に重要だと思うのです。

そうした観点から見たときに、学術会議の閉じた中で会員の選考をするよりも、第三者委員会という形でもって色々な観点から、国民目線を含めて意見を出してもらって選考されるという形にした方が、学術会議としても、国民の支持という観点からは、よりオープンで広いものが得られるのではないかと思います。第三者委員会の委員の選考をどうするかとか、あるいは選考のプロセスをどう公開するかとか、実務的な問題はあると思うのですが、建て付けの入り口からばさっと反対というのではなくて、繰り返しになりますが、学術会議が国民目線で見てどうかという考え方を入れれば、第三者委員会の設置という形で運営していくこともあり得ると思いますがいかがでしょうか。

○ ありがとうございます。

これについて、私たちは基本的にはやはり学術会議は科学者の団体であるということ、そしてその科学者の専門性をきちんと理解できているのは科学者であるという世界の共通認識に立って、会員を選ぶのは科学者自身であるという、世界の共通のコ・オペレーションがやはりいいだろうというふうに考えております。そうしたことがありまして、私たちの声明の中では、それをきちんと今後もやっていくことが重要だという考えの下で、懸念事項を書きました。

一方で、やはりもちろん国民目線というのは極めて重要なポイントです。これについて私たちが今どういうことを考えて、どういうことを実施しているかという、やはり会員だけで閉じた議論だけではよろしくない、そうしたことで、場合によって、必要に応じて、何かの委員会等に会員以外の方に入っていただいて、議論に加わっていただく。そのようなことを積極的

にしておりますし、なるべく学術フォーラムとか、そうしたもののでも広く国民の皆様に、学術の視点からどういうことを考えているかということを知っていただく、そうしたことを積極的に進めております。

○ 御存知のとおり、我々民間でも、ガバナンスの形としては、内部の取締役だけではなくて外部の取締役を登用したりあるいはダイバーシティを考えたような役員構成を構築するという事で、外部の多様な意見を経営に反映していこうということを考えていますが、これは世界的な潮流だと思います。学術をめぐる環境も大きく変化しています。従来のコ・オペレーションというもの、それが今、足下では世界的な潮流かもしれませんがそうした大きな環境変化を踏まえれば、一歩進んでそこに国民の目線をより多く入れていくという考え方で足を踏み出ささせていただくというのも、個人的にはありだなというふうに思いましたので、御質問させていただきました。

ありがとうございます。

○ 少し補足していいですか。

○ 総会の中でも出た意見ですが、我々が今、選考において従来よりも広い観点からの候補者を考えるための仕組みを導入しているということは、今、会長が説明したとおりであります。

それに加えて、これは会員の中から出たのですが、選考のためのプロセス要領、それから基準、そういったものを公表し、かつ経済団体も含めた外部団体にこの選考方針でやることについての意見はどうかという問い合わせの作業も既に進め、その結果を踏まえて選考プロセスを開始している。そして、さらに、これから選考の詳細の仕組みに関しても公表するということを決めている。会員は昨日の総会の中で、C S T Iの議員はどうやって選ばれているのかという言い方をする会員もありました。その意味で、我々は決して閉じているという言い方は当たらないと考えています。明らかに今までとは違った背景の方々から候補の情報提供をしていただくということをやっています。その上で、最終的に業績を評価するという一番の条件を担保できるのが会員の専門性であると、そうしたふうに申し上げているだけであります。

以上です。

○ よろしいですか。

今の点でいうと、C S T Iは、これはアメリカでもどこでもありますように、ポリティカルアポインティなのですね。そして人事は国会という第三者の評価と同意を受けて承認されています。つまり、それは政府の中に入っているから。同じように、学術会議は政府の中に入っている組織ですから、我々はどこか共有しなければいけないのは、学術の人間としてこれをハッ

ピーかどうかと感ずるかどうかは別にして、ポリティカルアポインティとしての役割を果たさなければいけないと思います。これが公的な意味での説明責任だと思っています。それは学術会議も同じような立場で政府の中に入っているということですよね。

○ だから、選考要領から何から全部公開していますよというふうに申し上げているので、それは説明責任の強化のために今回から改革の中で取り組んできたことであるというのは何度も申し上げているのであって、従来のやり方とは変えている……

○ それは何度も聞いていますが、今の質問でいうと、外部に対する、内部からの説明ではなくて、外部からのということですよね。

○ だから、この選考要領に対する外部からの意見を頂戴していると言っている。

○ 外部からの意見を頂戴するときに、その意見の聴取の仕方が果たして一般的な国民に対する目線が入っているかどうかという疑問はあるということですよね。

○ だから、我々がこうした方針で選考するということを考えていると、いかがですかという形で、色々な団体、その中に産業界も含んでいて、回答もいただいておりますと。

○ すみません、少しコメントさせていただきます。

私は会員の選考については日本学術会議がやればよろしいことだと思っておりますが、色々な今日お示しになっている理由が1から6までありますが、ここに独自性、自律性、独立性ですかね、こうした言葉が必ず入るのですね。残念ながら日本学術会議は完全に自立しているわけでもないし、独立しているわけでもないし、やはり政府から任命された公務員の一人としてこの学術会議に関与している以上、中々それを理由にするのは難しいのではないかと感じます。もしそれを理由にするのであれば、国から離れた寄附等で集めた資金で運用する学術会議になるべきだと思うのですが、この辺はどのようにお考えなのか。

○ やはり学術という違う立場から意見を、考えを表明するという、そうした意味での独立性、極めて重要だと思っております。その点を感じ覚的には忘れられがちなので、やはり我々としては、独立性が極めて重要だということを機会があるごとに言い続けるということが極めて重要だと、そこに学術会議の本来の重要性があるのだと考えております。

○ それは分かりました。だから、それもよく分かるのですが、独立性の意味が履き違えられる可能性も非常に高いなというふうに感じます。学術上での独立性、独自性であって、政府からの要望に対する独自性とか独立性というのと、少し区別をしっかりと上でコメントをされた方がいいかなと思いました。

以上です。

○ ありがとうございます。

この点も、お互いが言っている独立性が違うのではないかということはコメントありまして、そこら辺についてはやはりきちんと丁寧にお互いの考えを言って議論していくことが重要なのではないかと考えております。

○ 御説明ありがとうございます。

私も質問なのですが、以前ここで議論させていただいていたときに、科学的助言あるいは提言も、必ずしも政府に向けてだけではなくて、しかるべきリソースがあるのであれば、現在の予算的な裏付けを超えたことはやってもいいのではないかという話がなされた記憶があります。今回の財政基盤のところでも、基本的には国庫の負担ということが言われております。先ほど産業界との連携という議論もありましたが、学術会議の中で今お進めになっている改革の方向性としては、どのような議論がなされているか、あるいはもう具体的に何か始まっているのだしたら、それも含めて教えていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○ ありがとうございます。

残念ながら、財源的なことについての議論、そこまでやるだけの私たち、今、正直なところ余裕とパワーがありません。したがって、そこら辺については課題とは思っておりますが、学術会議内部で財源をどうするとか、そうした議論は正直ありません。

○ ありがとうございます。

○ 議論がすれ違っていると思うので、論点を明確にさせていただきたいと思うのですが、私の理解では、政府側としては、学術会議に独立性はあることは認めるけれども、国家機関であることには相違ないのだから、政府が一定の関与することは当然でしょうというロジックでお話をされているのだと思うのです。一方で、学術会議側としては、学術の世界というのは政府と離れた存在で意見を言うことに非常に高い価値があるのだから、その観点で学術会議の独立性は大変重要であるということを政府は認めて、その意味での自由度を与えるべきではないかというお考えと理解しています。そのことを前提として、学術会議は政府機関であるけれども、他の政府機関と同じような関与のさせ方ではなく、独立性を有する組織から意見がなされる仕組みを担保しておくことが、政府の責務として考えるべきことではないかとおっしゃっているのではないのでしょうか。簡単に独立と言われても予算などの色々な問題がありすぐにそれができる訳ではなく、また、独立的な助言、意見などがなされることは必要なはずであるので、政府機関の中に置いておきながらも、そうしたアローアンスを学術会議側に与えるべきではないかというのが、学術会議側のお立場ということではないかと私は理解しているのですが、違

いますか。

○ ありがとうございます。はい、そのとおりです。

○ だから、私自身は、そのような学術会議が、今おっしゃった二つ目の学術会議は必要だということを政府は認めていくべきだと思うのですが、ただ、それを完全に成立させるためには、財源の問題を全く触れぬ訳にはいかないと思うのですよね。だから、財源の問題をどうするかに関して私は全く分からないのです。今も検討が中々難しいとおっしゃった。財源を最終的に、例えば長期にわたって、それができるならできる、できないならできないで、どういう形態であればそのような政府が独立した学術からの知見を得るための組織体を成立させるのかについて、学術会議の中でやはり議論が始まるべきではないかと。財源論なしにその組織論はないのではないかと私は思うのですが、これは私には中々聞こえてこない話だなというふうに思っております。

○ すみません、しゃしゃり出て。

今回の内閣府から出た方針にはその論点はほとんどないに等しいのですよ。そうではなくて、違うところで色々とおっしゃっているんで、そこに対するレスポンスということになってしまっているのであって、今おっしゃっていただいたような財源論とかそうした問題は、それは本当に議論しなくちゃいけないことなのです。今回の声明文の最後の部分は、本当に議論すべきことは内閣府の政府方針が論点としている部分ではないだろうという話をしているのです。

○ だから、そこが自助努力として明確にまず示されることが、この話に対する政府側の違うレスポンスを……

○ 自助努力といっても現状は法制度上は無理なので、その法制度を変えろという議論を学術会議側からすべきだと、そうした論点というふうに考えていいのですか。

○ 財源についての提案ですよね。

○ そうしたことですよね。現実にはできないのですが。

○ 現状ではできないが、財源に関する提言とそれについての意思を何らかの形で示さないと、やはり前に進まない。並行線です。前に進まない。

○ おっしゃるとおりなのだが、内閣府の方で今回は海外のアカデミーについて随分調査をされたというふうに回答いただいたので、是非それを公表していただきたい。社会の共有財産としていただきたいのですよ、税金で調べたものなので。そして、それを踏まえて、どういうふうなオプションがあるかというのを検討するというのは、私はやるべきだと思います。

○ 海外の状況については、学術会議にも御回答ということで紙で差し上げましたが、提言ご

とに契約を結んでやるような国、あるいは必要があれば国費をもらう国、色々状況、様々であったということです。

それから、財源については、我々の具体化検討案の中の一番後、８の②に今御議論いただいたようなことが書いてあって、７の財政基盤のところ、ここは結局国のままになったので特段書いていませんが、仮に別な法人になる場合には、財政基盤の在り方についても検討は必要だろうと。問題意識だけですが、書かせていただいているところです。

○ その話から入るというのは、私は大変いいことだと思っているのですが、現実には今我々が次期会員の選考プロセスに入ってきているのに、それを止めて１年半遅らせて、新しい方式でやるからというふうに言われてしまっているのです。会員は、じゃ今やっている選考プロセスどうするのだというので、すごいもめているところなのです。ですから、そうした話になってしまうのです。

○ ありがとうございます。

かなり議論は並行線になりますので。もう３０分ほども時間過ぎていきますので、この政策討議、ここで終わらせていただきたいと思います。

議事概要に関しましては、非公開部分に関するＣＳＴＩ有識者議員の皆様の御発言部分につきまし、それぞれ御確認をいただいた上で、発言者を伏した形で約１か月後に公表をさせていただきます。

本日、また活発な議論をいただきまして、ありがとうございました。今後ともまたコミュニケーションを続けていただきます。またどうぞよろしくお願いいたします。

午後０時２７分 閉会